

幼児教育長期派遣通信 2学期号

発行 令和2年1月24日

廿日市市立廿日市小学校 伊藤 尚子（派遣園：学校法人有朋学園 かえで幼稚園）

2学期号では、子供達が遊びの中でどのような学びをしているのか、また、小学校とどのようにつながっているのか、派遣園での事例をもとに紹介します。



1 2学期の研修内容

- (1) 園内研修…園児の学びや育ち・環境構成や保育者の援助の見取り 年長児クラス補助 園バス添乗 研修会 園内行事
- (2) 園外研修…幼児教育の理解に係る研修会 報告会 接続に係る研修会 幼稚園教育課程研究協議会 保育の質の評価に関する研修 園内研修充実のための支援研修 所属校に入学してくる園児の実態把握 廿日市市幼保小連携協議会 廿日市市幼保小連携担当者会 等

2 実践を通して

子供達は遊びの中でたくさん学んでいます

◎子供達は遊びの中でどのような学びをしているのでしょうか。派遣園での事例を紹介します。

【活動の様子】

5歳児クラスの折り紙コーナーで、数人の子供達が折り紙の星を作っている。「流れ星を作っているの。」子供達は流れ星を作り終わると、次は折り紙でプリンセスを作り始めた。A児はお家の人とドレスを折ったことがあるようで、折り方をみんなに教えている。「まずは四角に折って…」「ここは線に合わせて折ってね。」「半分に折るよ。」「細長い四角になるようにするよ。」と折り紙の形や線に注意しながら教えている。B児とC児は形を確認しながら真似して折っていく。「この線のこと?」「これはどうするん?」と分からない時はA児に聞いている。5分ほどでドレスが出来ると顔を付けたり飾りを付けたりしてそれぞれのプリンセスが出来上がった。

子供達の様子を見ていた保育者は、普段はお手紙入れとして使っているついたてを部屋の真ん中に用意した。それを見たA児は、部屋にいた他の子供達や保育者と一緒に部屋の真ん中に椅子を並べ客席を作った。A児「ちょっと待って。お客さんと呼んでこなきゃ。」クラスにいた子供たちやA児に呼ばれてやってきた保育者たちが客席に座った。A児が「それでは今から人形劇を始めます。お静かにしてください。小さな子はお気を付けください。」と少しかしこまって言って、人形劇が始まった。

子供達は、ついたての後ろから人形を操作しながら台詞を言う。A児「あるところにプリンセスがいました。プリンセスは遊び始めました。」B児「ねえ、かくれんぼしましょう。」C児「いいわよ。」(紙人形を操作してかくれんぼをしている様子を演じる。)A児「流れ星が通りました。」(流れ星を操作する。)それぞれがその場で考え付いたお話をみんなに合わせて話している。そして自分が手に持っている紙人形になりきって台詞を言っている。お話が終わると観客から拍手をもらい子供達は嬉しそうな顔をした。

【遊びの中で育まれている力】



友達が分かるように折り方を教える。また、友達の手本を真似したり分からないことを聞いたりしながら折る。
【人とかわる力】

形や線に注目し、手本と同じになるよう、考えながら折る。
【考える力】



ついたてから劇遊びを思い付き、興味をもって劇遊びをしようと客席を用意したりお客さんと呼んだりする。
【考える力】



自分の人形になりきり、友達とイメージを共有し、話を合わせながら台詞を言ったり動かしたりする。みんなに分かるように表現する。
【うごく力】

劇を演じきり、友達と発表できたことを喜び合ったり、満足感を味わったりする。
【やりぬく力】・【感じる・気付く力】

◎この事例を見るだけでも、子供達が遊びの中で色々な力を身に付けていくことが分かります。

【事例から考えたこと】

どう生かしていきたいか

【小学校で】

子供達が劇の発表をする前、私は、子供達がお客さんの前で発表することを恥ずかしがるのではないかと考えていました。実際に、A児はお話の始めに恥ずかしさから声が小さくなりました。しかし、演じているうちにだんだん声が大きくなり、B児やC児と共に楽しそうに堂々と台詞を言うことができていました。その理由を考えると、友達が生き生きと話す様子につられたこともあります。お客さんである友達や保育者達が温かく肯定的に見守り、共感してくれていたことも大きいと思いました。

小学校においても、第1に児童が「安心」できるよう、児童同士の間関係づくりや担任をはじめとする周りの大人との信頼関係づくり、受容的な教室の雰囲気づくりを大切にすることが、その先、児童一人一人が自信をもって自分の考えをもち、表現することにつながると考えました。

前半は折り紙遊び、後半は劇遊びと遊びが変化しましたが、どちらも複数の子供達がかかわり合うことで遊びが盛り上がり、学びや育ちが見られました。豊かな遊びが生まれる時、子供達は「人・もの・こと」としっかりかかわっています。

小学校でも「人・もの・こと」、つまり環境構成を工夫し、「人・もの・こと」にうまくつなげることが、学びのきっかけを生むと思います。身近な日常生活から学びが始まることで、より主体的に学習に取り組めるだろうし、興味をもって取り組むことで理解も深まると考えました。これに加え、1年生の4月には、「人・もの・こと」とのつながりを大切にすることで、児童の安心をつくっていきたいです。

1学期号で、園では子供が自ら主体的に遊び始めるように、子供達の心が動くような「人・もの・こと」の環境構成を大切にしていることをお伝えしましたが、さらに、保育者は、その主体的な遊びが続くように、子供一人一人に応じて、環境を再構成したり、援助したりしています。事例で、保育者は紙人形を作るための環境を用意しただけでなく、みんなの前で劇遊びの発表ができるようについでを用意しました。これは、友達とイメージを共有し合い、役割を決めてそれらしく動くことを楽しむようになる5歳児の発達段階や、普段からごっこ遊びを楽しんでいるA児達の様子、子供達の思いや願い等を理解している担任ならではの援助です。みんなの前で発表することで人とのかかわりがさらに増え、遊びが広がりました。

小学校においても個をしっかり見取り、子供達の思いや願いを学びに生かしていくことは主体的な学びや学びの深まりにつながると考えました。

安心

つながり

思いや願い

◎学んできたことを生かしてスタートカリキュラムを作成中です。

緩やかだけど手応えのある段差を感じられる接続 を目標にしました。

入学してくる1年生が安心して小学校生活をスタートできるように。

緩やかにつながりだけでなく、園所での学びや育ちをしっかり生かせるように。

子供達が生き生きと自己を発揮しながら学べるように。



キーワード 「安心」・「つながり」・「思いや願い」

3つのキーワードを大切に、環境構成や1日の始まり方、学習の進め方等を工夫

3 まとめ

幼児教育は小学校教育と違う点もありますが、似ている点もたくさんあります。違いを緩やかにつなぎ、似ている点を生かして手応えのある段差にすることで、子供達は安心し、ステップアップを楽しみながら小学校生活をスタートできると考えました。残り少ない研修となりましたが、更に研修を深め、幼保小接続の推進に努めていきたいと思ひます。

乳幼児教育支援センターから

子供たちは期待や不安をもち、小学校に入学してきます。温かく肯定的な雰囲気の中で「安心」し、先生の支援のもと、自分の「思いや願い」をもって、これまでの学びや育ちを「つなげて」いけるスタートカリキュラムを作成していくことで、子供達の主体的な学びの実現を目指しましょう。違いだけでなく、共通点にも目を向けることもヒントの一つです。